

平成7年8月31日  
江別市生涯学習推進協議会  
江別市高砂町24番地  
教育委員会社会教育部参事(生涯学習担当)  
☎011-381-1062

えへつ

# 生涯学習

生涯学習情報紙

だより

## 市民展示とTV録画で賑う

―フェスティバル 成功裡におわる―

去る7月8日(土)、9日(日)、第一会場野幌公民館及び、第二会場市民体育館において、「生涯学習フェスティバルえべつ」が開催され、約七千人の入場者でにぎわいました。

第二会場である市民体育館では、「ふれあい三世代フェ

ア」が行われました。NHKのテレビ番組(おかあさんといっしょ・現役くらぶ人生これから・三世代ふれあい歌合戦)の公開録画が行われ、幼児からお年寄りまで、楽しいひとときを過ごしました。また、同時併催の「市民の創作展示・イベント広場」で

は、市内の多くの団体が日頃の活動の成果を披露してくれました。展示ブースには実演コーナーも設けられました。入場者の中には、実際に自分の作品づくりに挑戦し、時間のたつのも忘れるほど熱中していた人の姿も見られました。

### 気分はスタッフ

また、第一会場である野幌公民館では、7月3日〜14日の二週間にわたり、「キッズTV・ユメディア号」公開事業が行われました。これは市内全小学校の5・6年生の社

会科の授業として行われたものです。NHKの三台の特別仕様車と、公民館内の仮設スタジオで、立体ハイビジョンシアターや、リアルタイムで動くアニメキャラクター、さらに本物の放送機材を使つての番組づくりなど、子ども達はすっかり製作スタッフになりきつていたようです。

強く関つてくるものだ。高齢化社会の今、私は、いかにステキに年を重ねていったらよいか、常に考える様になった。そんな折このフェスティバルに出展させていただき、精神的にも文化的にも豊かに生き生きと生活している人々に出会うことができて、大変幸せに思っている。花や木、紙、土、布など、対象はそれぞれ違つてはいたが、それに関つ



市民の創作展示「押し花」。の実演コーナーは、笑いが満開です。

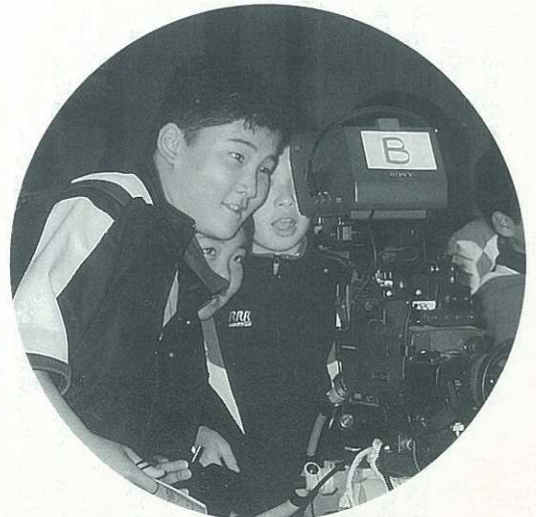


泉澤 彌崇代

### 夢を持ちつづける

夫の留学で米国に住んでいた時、「夢」についてスピーチをする機会があった。私の夢は、これこそ夢を持ち続けて生きることだと話した記憶がある。夢、すなわち生きがいを持つことは、その人の自主性に

豊かに生きる機会も近いこの江別で、多くの市民が生涯学習の意義を理解し、明るい夢のあるまちづくりができる様、これからの生涯学習推進協議会の活動に、私は大いに期待している。



ヤアヤノ本物のカメラはすげえノユメディア号は胸が高なるぞ。

いつでもどこでも誰でもが学ぶ

# 生涯学習ってなアーに？

現代社会において、人々はあるおのいのある豊かな暮らしとともに生きがいを見い出すことが一番大事であるとの思いが強く、生涯学習の果たす役割はますます大きくなってきています。



木太陽子

一方、「生涯学習という言葉はよく聞くが、いったい何なの？」という声も聞かれるようです。そこで今回は、生涯学習に造詣がある方々から、ご意見を寄せていただきました。

さったグノーのセレナーデは、軍歌に慣らされていた私の耳に、妙なる豊かさを刻みだされた、その時からなのかも知れない。

ふと気づくと私は奇麗に紡がれていく音楽の彩の中から、ホルンの音色をたぐって満足感に浸っていた。7月11日江別市民会館で行われた、ウィーンオーケストラ首席奏者によるPMF演奏会でのことである。

## 音楽と仲間と…

地よき、私達の声が楽器の

私は何といつても生の演奏が好き。若い頃初めて行った演奏会がヴァイオリンのハイフエッツ、そのときすまされた心に響く音色に魅了されてしまっただけのことであらうか。

それとも終戦直後、転勤による最後の授業の際、美しいソプラノの女教師が歌って下

う体験は、それ以後の私の生き方の一部となってしまった。以来どこに住んでも、子育ての最中でも子連れで、よい指導者に恵まれ歌い続けることができた。

そのほか、読書会や美術愛好の仲間との交流など、心ひかれるまま過した道のりこそ、私の生涯学習といえよう。

二〇年後の日本は、四人に一人が六五才以上の高齢者になるともいわれております。

## 地域と大学

江別市も例外でありえず、こうした高齢化社会を迎え、私立大学に籍をおく一人としての様な事が出来るのか、じっくりと考えなければと思う。



谷口義秋

今まで以上に大学の教育機能や、施設の地域への開放が必要になってくる。(公開講座開設、体育施設の開放、大学の生涯学習教育センターの設置、リカレント教育の推進等)

更に一生に一度、二〇才前後の四年間を大学で学ぶだけではなく、五〇才、六〇才を過ぎてからの四年間を大学で学ぶ事はどうであろうか？ 大学は専門家や職業人の為の教育機関だけではなく、地域の人が自己を高めるために学ぶ事が出来る大学であつても良いだろう。これからの長い人生、何度大学に入学しても、学ぶことが目的であれば、じっくりと学んで欲しい。六〇才、七〇才の学生が、二〇才前後の学生と一緒に机に並び真剣に学ぶことの出来る大学であつても良いと思う。生涯学習が、お題目に終わる事なく本当に実践していくには、行政、企業、大学のみならず市民が自主的な行動を興し、連携協力して行くことが生涯学習時代の更なる発展につながると思う。



こうして、こうやって、こうする…手工芸は人と物の対話です



関根正一

請されました。しかし、社教関係団体や自治会のボランティア活動と個人的学習体験の持合せしかならない。私には、発表する程の実績がないので平素の個人研修の一端を報告いたします。ご承知の通り道央の石狩地区には、道・市・大学等の図

## 新鮮書生ぼさ

印象深かったのは、某大学の「戦後五〇年を考える」パネルディスカッションでした。若い学生諸君や年輩の教職員

と肩を並べて、パネラーの進気鋭の若手研究者や他校の名誉教授でもある碩学の老教授の既成概念を覆す新しい論理を拝聴したことでした。未だ手付かずの戦後処理に対応する「国家・国民の在りよう」など、書生っぽい論議もまた新鮮で感動でした。『まだらボケ』の兆候顕著な昨今、知的刺激は、脳細胞を賦活させる原動力であり、自己実現と社会参加の為に学習活動を継続したいものがあります。

# まちづくり 江別青年会議所

文責・高橋 俊夫

みなさん、青年会議所という団体をご存知ですか？  
青年会議所は、明るい豊かな社会の実現を理想とする、二〇歳から四〇歳までの青年の団体です。

日本には現在七五〇余の都市に六万余の会員があり、全世界では、約三六万人の会員が連携をもって活動しています。  
その一団体として社団法人江別青年会議所があり、現在六〇余名の会員を擁し、江別のまちづくりのために様々な運動を進めているのです。

## 会員の募集

江別市生涯学習推進協議会では、加入団体を募集しております。今年3月に設立したばかりの新しい団体ですので、市内各団体の皆様のお力添えが欠かせません。詳細につきましては下記までお問い合わせ下さい。

があります。スノーフェスティバルは、一四年前に青少年の育成を目的として始められ、今年で一四回を重ねる事業で、毎年多くの市民の方に参加をいただいております。現在は、実行委員会に一団体として参加をしております。ウォークラリーは、毎年場

所を変え、親子や友人と共に江別の街を歩いていただき、心のふれあいをはかりながら、江別の街の良さを再発見していただくことを目的として行っております。

## オピニオンリーダーの育成

オピニオンリーダーにならんとする人材の育成をはかっております。

以上のとおり青年会議所は、明るい豊かな社会の実現を目的とした人の育成をはかりながら、その実現にむけて運動をしている団体です。

また、毎月2回の例会では、各方面の講師をお呼びし勉強



親子のふれあいと江別の街・再発見のウォークラリーは、JCの目玉事業です。

## 推進協議会の役員名簿

江別市における生涯学習振興のための市民主体の中心組織、江別市生涯学習推進協議会の役員が次のとおり決定いたしました。

会長	伊藤 嘉美 (江別市青少年のための市民会議)
副会長	安宅 美子 (江別市子ども会育成連絡協議会)
理事	鈴木 勇 (江別市文化協会)
	佐賀 秋 (札幌学院大学)
理事	谷口 子 (市民憲章推進協議会)
	泉 角子 (江別消費者協会)
理事	大宮 かをる (国際ソロプチミスト江別)
	稲田 明幸 (江別市自治会連絡協議会)
理事	山根 義弘 (江別観光協会)
	関前 一 (社会教育委員の会議)
理事	春 基 (新王子製紙(株)江別工場)
	服部 実 (江別市体育協会)
理事	後藤 英雄 (江別市民生委員連絡協議会)
	高近 夫 (江別青年会議所)
理事	藤原 雄 (江別市社会福祉協議会)
	藤原 子 (江別市食生活改善協議会)

## 投稿 ピックのベル

大正琴恵翔会 有波 登代子



今や生涯学習という言葉が、クローズアップされ、高齢化社会へむけて、私達は、自ら手で生き甲斐を求めながら、心の豊かさを養える趣味を見出す大切さを痛感いたします。せわしなく過ぎてきた道すがら、ふと大正琴というロマンの音色にふれ、おぼろげに門して六年余、今では週一度のお稽古に全力エネルギーを絞るひととき悦に入っている。大正琴愛好の同心ファミリー、江別恵翔会です。年中行事と

私達です。又、わずかではございますが福祉の方へ募金の一滴にと寄付もさせて頂いております。

恵翔会へのお問い合わせは 〇 江別市朝日町二七―八 電話 三三三―一三三二

有波 登代子



なをさんの語り

に 喝 采

色を添えた弦楽アンサンブル

今年で六回目を数える「紅ライフトーク'95」が、江別市生涯学習推進協議会、江別市教育委員会、紅の会の共催で、去る8月25日(金)、野幌公民館を会場に開催されました。

音楽と講演のつどいと銘打ったこの事業は、江別弦楽アンサンブルによる、モーツァルトの「小夜曲」で幕を開けました。ご来場の皆様は、バイオリンの音色に耳を傾け、夏の昼下り、クラシックを堪能しました。



にこやかに舞台からごあいさつの阿部さん。

続いては、人形作家、料理研究家として著名な阿部なを氏の講演が行われました。演題は「老いを楽しく生きる」。ご自身の貴重な体験談をまじえながら興味深いお話から、生きるヒントを得た方も多かったのではないでしょう。



江別土器の会の作品

○期間 9月28日(木)～10月2日(月) 毎日午前10時より  
○メイン会場 アクセス・サッポロ

豪壮な邸宅のロビー。まちまちの服装の楽士達がハンガリアン・ラブソナード第5番を奏で始める。何事かと二階のテラスに出でくるストコフスキー。初めは非礼を怒っているが、曲が進むうちに手摺りに置いた手がリズムを取り始め、やがて両の手を振り上げ指揮を始める。トロンボーン吹きの父親(A・マンジュール)とその娘が顔を見合わせてニコリ。やがてカーネギー



映画「オーケストラの少女」は敗戦後のすさんだ少年の前に衝撃的であった。私は、少女を演ずるティアナ・ダービンの虜になり、ストコフスキーのオールバックに憧れた。

中で無意識に破片を合わせている60才の私。しかしダービンは割れたまま、今でも私の掌中であり、玲瓏の歌声を聞かせ続けている。(道開拓の村参事)

40年目のある日、ちよっとした自分の不注意でレコードは三つに割れてしまった。悔恨の

私の宝物  
割れたレコード

中村 斉

ホールで、市民交響楽団コンサート。少女のラ・トラビータの aria がホール一杯に響く。銀髪オールバックのストコフスキーがノスタクトで指揮をする。

貧乏な中学4年生の私は、食費を削ってD・ダービンのレコードを買った。生まれて初めての買物だった。レーベルに描かれたダービンの顔を眺め、針を降ろさず大切に持ち歩いた。齢を重ねてもレコードの向こう側には、ときめくことができる少年の私があった。

ニックネームの募集

前回に引き続き、江別市生涯学習推進協議会では、市民の皆さんから親しみを込めて呼んでもらえるような会の愛称を募集しています。採用の方には記念品をお送りします。

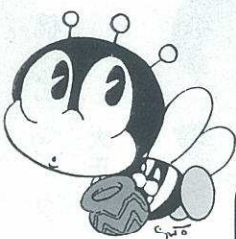
1. 申込先 〒067 江別市高砂町24番地 江別市教育委員会社会教育部 参事(生涯学習担当)まで
  2. 応募方法 はがきに、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、愛称とその理由をお書き下さい。
  3. 締め切り 10月31日必着
- ※おわび 創刊号では締め切りが早すぎ、ご迷惑をおかけしました。

おねがい

4月の創刊号以来の「えべつ生涯学習だより」ですが、次回からも団体紹介や、人物紹介、メンバー募集などを行いたいと思います。また、その他紙面に関するご意見・ご感想などなんでも遠慮なく、事務局宛にご投稿ください。

全国生涯学習フェスティルの開催

見本市に江別も出展 街とやきもののいろいろ



この秋、第七回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア'95北海道」が開催されます。フォーラム・シンポジウム・講演会・展示・公演など二〇〇以上のイベントや生涯学習見本市・体験広場が企画されており、道内外から四〇万人以上の参加が見込まれております。

江別市生涯学習推進協議会でも、生涯学習見本市へ出展します。テーマは「縄文からの発進/街とやきもの」。土器にはじまり、れんが、陶器、ガラス工芸に至るまで、郷土資料館やセラミックアートセンターなどが所有する作品の展示をまじえながら、江別とやきものとの歴史的な関わり

9月28日  
～10月2日